



平成27年11月10日

各位

上場会社名 株式会社 大泉製作所
 代表者 代表取締役社長 久保田 達夫
 (コード番号 6618)
 問合せ先責任者 専務取締役管理本部長 山崎 成樹
 (TEL 04-2953-9212)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成27年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成28年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,883	116	55	44	5.83
今回修正予想(B)	5,879	△17	△234	△279	△37.21
増減額(B-A)	△3	△133	△290	△324	
増減率(%)	△0.1	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	5,978	△43	△76	△99	△15.58

平成28年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,005	384	267	235	30.05
今回修正予想(B)	12,152	322	51	△31	△4.08
増減額(B-A)	146	△62	△216	△267	
増減率(%)	1.2	△16.2	△80.7	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	12,021	36	△36	△241	△35.82

修正の理由

平成28年3月期第2四半期(累計)期間につきましては、営業損益面では、これまで取り組んできた諸施策が完了し、確実に利益を計上できる体制が整いましたが、それら諸施策の効果の発現が遅れたことにより、当初計画どおりの黒字転換には至りませんでした。

具体的には、

(1) 不採算である空調家電製品の値上げ交渉を行って参りましたが、不採算な状態での受注が継続したことに加え、当該製品の需要が想定以上増加し中国工場での高コスト生産対応を行ったこと。

(2) 当該不採算製品の一部値上げ合意がなされたものの、その改訂時期が遅れたこと。

(3) タイ工場への生産移管が遅れ、固定費負担が重くなったこと

等により、営業利益が伸び悩みました。

また、営業外損益面では、期末日である9月末でのUSDルに対するTHAIバーツが急落し、多額の為替差損を計上したこと等により、経常損益を圧迫しました。

通期の連結業績予想につきましては、上述の通り9月末時点で確実に利益を計上できる体制が整っておりますが、第2四半期(累計)期間における損失をリカバーすることは困難と判断し、予想数値を下方修正いたします。

以上